

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
17



ユースシンポジウム2013
「若者がいま／未来を語るユースセッション」

演劇ビギナーズ
ユニット 20周年記念事業





ケータイと恋愛

立命館大学産業社会学部准教授
齋藤 真緒



いまどきの恋愛に、ケータイは不可欠だ。待ち合わせに遅れそうな時にも便利だし、無料での通話やメールもできるようになった。ツイッターやFacebookなど、いちいちパソコンを立ち上げなくても、いろいろな人と気軽につながれるようになった。

ケータイがなかった時代を想像してみよう。相手が自分と一緒にいないときに、どこにいるのか、何をしているのか、誰とどんな会話をしているのか、知る由もなかった。会うことで、会話することで、相手との信頼関係を確認するしかなかった。今からするとなんとももどかしい気もするが、逆にケータイは、いろんなことが瞬時にわかってしまう分、不安や疑念も倍増する。LINEで既読がついたのに、返信がこないとそれだけでへこんだりいらいらするなど、過剰に振り回されてる。相手のことを知りたいがゆえに、つい相手のケータイをみてしまう人もいる。あるゼミ生がいった。「ケータイの中に幸せはなかった」。なるほど。ケータイに振り回されるのではなく、ケータイを使いこなす術をもっと学んでいこう。

(京都市ユースサービス協会理事)

イラスト 厚焼サネ太

14 12 10 8 7 3

特集

ユースシンポジウム2013

「若者がいま／未来を語る」

ねっとわーくビッグイシュー京都

中高生とスマホの功罪（移り変わるコミュニケーション）

演劇ビギナーズユニット20周年記念事業

動き出した『ひきこもり地域支援センター』
子ども・若者支援室の新たな取り組み

ユースかわら版

若者側に立つ英国のワーカー ほか

〔表紙の花〕 ホトトギス

東アジアを中心におよそ20種が分布する多年草。斑点のある花びらが、ホトトギス（鳥）のおなかの模様と似ているためこの名前があります。別名ユテンソウ。

平成21年施工 二条城茶室香雲亭

株式会社武村工務店

明治元年設立

私たちは若者の活動を
応援しています。

平成18年施工 山崎聖天観音寺
聖天堂

「古き良き物を次の世代に残し
伝えていきたい。」
そう願い、私たちは日々文化財や
京町家の修復に努めています。

株式会社武村工務店

〒604-0933

京都市中京区御幸町通二条下る山本町432

TEL:075-231-2881・FAX:075-231-9422

E-Mail:info@takemura-k.com・URL:www.takemura-k.com



Youth Symposium 2013

ユースシンポジウム 2013

若者がいま／ 未来を語る ユースセッション

“対話” で盛り上がる若者たち

9月29日(日)、14回目となるユースシンポジウム2013が中京青少年活動センターに、200名近い参加者を集めて、開催されました。今年度は「若者がいま／未来を語るユースセッション」というテーマで1部、2部を通じ、若者自身が等身大の“自分”をそれぞれの手法で語り、表現し、発信する場として位置付けました。そこから多様な若者の姿があぶりだされ、語り手である若者自身の“いま”に新たな意味づけが生まれました。

パネリスト ● 松本浩美さん(NPO法人Home door 事務局長)

滋野正道さん(ヤマカミ計画代表)

井上 栞さん(シチズンシップ共育企画学生スタッフ)

上原大吾さん(フレゼン龍実行委員会代表)

コーディネーター ● 深尾昌峰さん(NPO法人きょうとNPOセンター 常務理事)

第1部の全体トークセッションでは「若者が社会とつながる瞬間」と題し、若者のパネリスト4人が、深尾コーディネーターから与えられた「スイッチ」というキーワードをもとに、それぞれ自分語りをしました。

松本さんは小学校時代のいじめ経験から「変わりたい」と思った中学校時代に、ボランティア部で出会った釜ヶ崎のホームレスのおっちゃんたちの衝撃的な姿。滋野さんは「夢がない」「モラトリアム」という言葉を多用しながらも「今の自分に正直に生きる」こと。井上さんからはインドの福祉施設でのボランティア経験やある女の子との出会いから「社会」を意識したこと。上原さんは大学浪人時代の仲間と、大学入学後に出会った友人との間にギャップを感じ、そこから始まった葛藤や生きる意味探しについて話

されました。

最後に深尾コーディネーターが、「変人」というキーワードで「社会を変えていく人」に触れ、「若い人たちの感性や、生きづらさ・ネガティブをはねかえす力の中に社会全体のつくりかたのヒントがあるのではないか」「社会が若者を孤立させず、一緒に取り組んでいく多世代の存在が必要ではないか」という問いを提起されました。

セッション終了後、参加者から「初めはキラキラした若者たちが話をする内容だと思ったが、さまざま葛藤を抱えながらも目標をもって活動していることがわかり共感できた」という同年代の若者や「若い人たちの活動実践を聞いて心が洗われた。私なりに社会の役に立ちたい」といった70代の声を聞くことができました。

(中京青少年活動センター・ユースワーカー 竹田明子)

トークフリマ バラエティに富んだ熱い対話

(伏見青少年活動センター・ユースワーカー 青木 理紗)

トークフリマは若者が本気で語る魂の「1日Session」には、21の団体が出店しました。国際・環境・NPO・学習支援・セクシュアルヘルス・福祉・被災地支援・大学自治会・社会企業家など、大変バラエティーに富んでいました。

トークフリマとは、出店者がホスト役となり、商品としてトークを提供します。来場者は自由にブースを回り、気になるところでトークを聴く。机とイスがあったり、カーペットを敷いて地べたに座ったりと、トークスタイルもまちまちで、来場者とホストが意見を交換しました。

「活動紹介をするイベントはたくさんあるけど、自分の想いを伝える場は少ない」という学生の声に後押しされ、今回の企画は実現しました。脱サラしてレストランを立ち上げ日替わり店長制を敷いた「魔法にかかったロバ」、アフリカの子どもたちを支援する学生国際協力団体CWSのメンバーによる「そこで感じた疑問」の提起、10代の若者が担う東北復興支援を熱く語る「ティーンフォア3・11関西支部」など対話を軸に活動や社会への思いを存分に発信していました。

2つの会場に分かれましたが、どちらも賑やかで熱気に包まれるなか、多くの若者が本気で語り合う姿に、主催者側にも強く伝わるものがありました。また、「これだけ真剣に自分のことや想いを伝えられる若者に出会えてよかった」との、来場者の一言も。これからも想いを語りたり対話をしたり交流ができる場づくりを通じて、若者が輝ける機会をプロデュースし続けたいと思いました。



参加者の声

- タンザニアのストリートチルドレンにアプローチしている団体があることにとても驚き、感動しました！
- 何のためにエコロジイするのかとか、エコロジイしてどうやって幸せになるの...とか非常に大事だなと感じます。これから私たちがどうするの？
- グチをまったく他人の第3者に聞いてもらえてとてもスッキリしました！！
- ありがとう。自分の支えになったし、元氣エネルギーをいただいた。

ブースコーナー 多彩に若者を呼び込む

14団体の若者が出展、ブース同士の交流も見られました。「クラブ・アトラクション」は大きな壁紙を使って自由に質問や意見を書かせ、参加者同士の新しいつながりを広げようという試みを、「ゲチコレ」はたまった愚痴を存分に語れる場を提供。「劇団しようよ」は会場ロビーを使って、お笑い芸人のような路上パフォーマンスを実施、来場者の笑いを呼んでいました。

(南青少年活動センター・ユースワーカー 横関つかさ)



交流会 出合いを力に

第1部の全体トークセッションから午後のトークフリマやブースコーナー、セミナーの参加者、一般来場者ら約1000人が集まり、活動を終えてホッとしたりと時、自由に意見交換などが行われました。参加者からは「こういう形でさまざまな活動をしている若者が集まり、話ができる機会はなかなかないので、いい体験になった。また来年も開催してほしい」という声も聞かれました。終始、和やかなムードでユースシンポジウム2013を締めくくることができました。

(東山青少年活動センター・ユースワーカー 羽田野 侑依子)



セミナー 発達障害を知る機会に

思春期から大人へ若者がいまを語るを主題に、発達障害者支援センター「かがやき」の岩井栄一郎氏が、発達障害を取り巻く現況を具体的に語られ、少数派の障がい者が生きやすいよう社会的な工夫が大事と強調されました。続いて発達障害を持つ若者が、大人へと成長する過程で感じたさまざまな思いをリアルに話し、参加者にインパクトを与えました。セミナーの意図する「より多くの人に発達障害を理解してもらおう」機会を増やしていきたいものです。

(中京青少年活動センター・チーフユースワーカー 村井繁光)

若者たちに明日の社会を期待する —ユースシンポジウムをふり返って

龍谷大学政策学部准教授 深尾 昌峰



今回のユースシンポジウムでは、社会と正面から向き合おうとしている若者たちがたくさん集まっています。熱意がありました。それも、何か派手なことを実現してやろうということではなく、等身大の挑戦をしている若者たちです。私は、第I部「全体トークセッション」の司会をしていましたが、壇上にいたパネリストたちは何ら特別な存在ではなく、むしろフロアのたくさんの若者たちとの間に一体感ができていました。将来の就職を心配する親との関係を気にしていたり、活動にかかるお金の工面に苦心していたりと、みんな共通の若者らしい悩みを持っていました。今の若者たちは、SNSなどの新たなツールに恵まれ、シェアすることが得意な世代です。学生団体やNPOの絶対的な数も増えていくように感じますし、相互のつながりやネットワークがどんどんできています。若者の社会参加の裾野が広がっていることを実感しています。

一方、若者政策では、労働市場を通じた社会参加が推進されています。しかし、いま労働市場はどんどん流動性を増大させています。特に若者にとっては非正規雇用が当たり前の時代になり、使い古しの働き方が広がっています。モデルなき時代、将来を見通しにくい世の中で、従来型のシステムを前提とした発想が早晩立ち行かなくなることは明白です。ただし、労働市場への参加と市民社会への参加を二分法的に捉えるのではなく、若者たちが自分の経験の活かしかし方のチャンネルを多彩にイメージできることが大切だと思っています。彼らは「ゆとり世代」などと一括りにされることも多いですが、裏を返せば、自分たちの頭でしっかりと考えることを教えられてきた世代でもあります。私は、これまでのモデルにとらわれていない若者たちこそが、社会を豊かにつくり変えていけると信じています。

聞き手

山科青少年活動センター
ユースワーカー 上原 裕介

■ プロフィール

深尾 昌峰（ふかお まさたか）
専門は非営利組織論。公益財団法人京都地域創造基金理事長、
公益財団法人京都市ユースサービス協会評議員会会長も務める。

おひろちゃん

ビッグイシュー京都



●ミッション

『京都市で雑誌「THE BIG ISSUE」日本版を販売しているホームレスの方（販売者）と呼びます』の自立を応援しています。また、京都におられるホームレスの方を広くサポートできるように活動を広げよう模索しています。

●設立

BIG ISSUE は、ホームレスの方に雑誌「THE BIG ISSUE」を路上で販売する仕事の提供を通じて、その方の自立を応援しています。1991年にイギリスで始まり、日本では2003年9月大阪に本社を設けて始まりました。

京都では11月に「ビッグイシュー日本京都事務所」が設けられ、学生を中心として活動を始めました。その後2012年の夏に、関西厚生協会の協力も加わり、現在の「ビッグイシュー京都」となりました。

●学生代表

勝部 皓（滋賀県立大学4年生）

●わたしたちの活動

現在、京都にはホームレスの方が200人近くおられます。その多くは、些細なきっかけで路上に出ざるを得なかった方々です。

この雑誌は、一冊300円で、そのうち160円が販売者の収入になります。雑誌の表紙には芸能人やハリウッドスターなどの有名人に無料で出してもらっています。内容は日本や世界の社会的な問題を取り上げつつ、他の雑誌にはない様々な切り口で内容の濃い特集となっています。

京都の販売者は現在2人です。1人は河原町四条高島屋前で、もう1人は百万遍交差点を中心に販売しております。

私たちの主な活動は、販売者に雑誌を卸売り、そして色々とお話をします。ホームレスの方は、人との交流がなくなるケースが多く、販売を通して、収入を得るだけでなく、スタッフ



やお客さんと「コミュニケーションをとることが社会に復帰するためには欠かせません。実際、販売者の方は、販売を通じて雰囲気が多くなったり、表情がいきいきしたりします。

また、ホームレスの方に対して、京都で受けられるサポートの情報をまとめた冊子「路上脱出ガイド京都編」の作成・配布やビッグイシューについての市民活動センターでの展示などの広報活動も行っています。今後は他にも、ボランティアが主体となつて、企画の立案・実行を随時行っていきたいと考えています。

もし、街角で「BIG ISSUE」販売者を見かけられましたら、気軽に声をかけていただければと思います。

現在、ボランティアスタッフを随時募集しています。興味がある方は、学生に限らず社会人の方でも構いませんので、気軽にご連絡ください。

電話 075-351-3887 070-6523-3472 メール Kyoto@bigissue.jp
住所 600-8119 京都市下京区河原町通五条下る下塩竈町河原町プレイス 203

中高生と スマホの功罪

～移り変わるコミュニケーション～



青少年の携帯電話所持率が中学生51・8%、高校生98・1%。そのうち、スマートフォン（略してスマホ）の割合は中学生25・3%、高校生55・9%と普及が確実に進んでいます（内閣府の平成24年青少年のインターネット利用環境実態調査から）。近年、スマホを媒介とした事件やいじめがメディアで多く取り上げられ、スマホの普及に漠然とした不安や不信が広がっています。京都でも、平成25年11月12・13日に内閣府主催の「青少年のインターネット利用環境作りフォーラム」が京都パルスパラザで実施されたほか、スマホの功罪を巡って全国的な運動の機運が盛り上がっています。

インタビュー 1

今、青少年たちの間で何が起きているのか、京都市内小中学校現場の取り組みについて、京都市教育委員会指導部生徒指導課石井大記、油谷昇両指導主事に話を聞きました。

事件に巻き込まれる中高生

スマホ関連の問題は京都市教育委員会でも大きい問題と捉えています。スマホ機能のなかでも、カメラとネット環境の普及で日常のようすを面白おかしく投稿し、人権侵害やいじめにつながる事件や、アプリのGPS機能を利用したストーカー事件、プロフィールを偽って近づくと「なりすまし」といわれる、わいせつ事件が発生しています。ネットに上げた情報は簡単に転載できる（魚拓と呼ばれる）ため、脅しの道具として使われるなど、より深刻なダメージを与えています。

学校での取り組み

京都市ではPTAも含めてスマホを含む携帯は必要ないと全市立小中学校で持ち込みを禁止しています。中学校の生徒会も動き出しました。ここ3年続けて全中学校を8つの地区に分け、その代表が会議する生徒会サミットで規範意識を育むことや、日々の生活のなかで様々な問題も意識しながら、「いじめは、しない！させない！許されない！」など9つの宣言を立て、問題の解決にも取り組んでいます。また、教育委員会では京都府警と小中高総合支援学校が担任と連携し、非行防止活動に努めています。

家庭への取り組み

青少年が関わるスマホ関連の問題を語る時、家庭での青少年との向き合い方も見逃せません。保護者がどれだけ子どもとやりとり出来るか。スマホを持つことで急速に情報世界が広がり、たった一晩で人間関係が壊れてしまふ。そういう世界がスマホにあることを、特に保護者に伝えることが私たちの使命の一つと思い、携帯を持つ子どもが急増する前の小学校6年生の保護者を対象に説明会を行うこともあります。

情報社会におけるスマホ

ネットいじめに関しては「ネットツールを持つからダメなんだ」「親が持たせるからダメなんだ」という人もいます。

しかし、現実問題、情報社会が急速に展開している中で、携帯電話を持たせないという選択はあまり現実的ではないように思います。そういうところを踏み越えた議論が大事だと思います。ラインなんかはすごく利便性のあるツールで、災害時には人の命を救うこともできる。一方で、間違った使い方をすると、子どもの命を縮めたり、いじめや人権侵害のツールにもなったりする。ネットツールを使う上での、社会啓発やルール作りをする必要があると思います。

インタビュー 2

スマホ問題をはじめ、移り変わるコミュニケーション。特に学校で起こる諸問題について佛教大学教育学部長の原清治教授をインタビューしました。



ネットいじめと依存、 スマホに「ネイティブ」な若者の価値観

学校の子どもの間にはカースト（序列制）があります。序列の低い子どもに向かって、ふざけとか冗談半分が長じた「いじり」が行われています。また、子ども達は返信の速度で人間関係の濃淡を使い分けることができます。大切な相手には早く返信をし、それによって関係性の順番、カーストが作られていくこともあります。デジタルな世界に「ネイティブ」な子ども達は、そういった中で楽しい思いをしたり、つらく悲しい思いをしているのです。

規範の低下と人間関係の復権

家庭でも学校でも、ご飯時には携帯電話を触らないとか、「ネットルール」が必要だと思えます。家庭にネットルールがない、モラルが低いという現状を打開するためにも「規範力」を育むことに意味があると考えています。子どもだけでなく、親も守る必要があります。また、ネットツールでいじめられている子は、確実にメッセージを出します。突然、携帯電話を触らなくなるとか、そういうサインが出た時に、親子関係の中に、いじめられていることを話せる関係があるかどうか重要です。

先生方は「自分たちがネットツールを知らない」と言わない方が賢明です。先生がラインを知らないと言ってしまうば、子どもは自分たちの生活世界に先生が入ってこないというお墨付きを与えてもらったも同然なのです。先生が、子どもたちの世界にアンテナを張って、どれくらいの子どものちが携帯を持っていて、どのようにラインをしているのかを知っているだけでも全然違います。大人たちがみんなでもっと子どもたちの世界に接近していくべきなのです。放任して、子どもたちが手の届かないところに行くような、どうしようもない状態にならないようにしたいものです。

（下京青少年活動センター ユースワーカー 岩見晃宏）



での謎が解き明かされたりと、みなさんと一緒に豊かな時間を過ごすことができました。また、ビギナーズならではのワークショップでは、若い、新しい創造力に会うことができました。2日間で述べ150人の方にご参加いただきました。



演劇ビギナーズ ユニット 20周年 記念事業

19年前の平成6年(1994年)5月30日は、演劇ビギナーズユニット(以下、ビギナーズと略記)が始まった記念すべき日です。この日、劇団M.O.P(2010年解散)主宰のマキノノゾミさんをお招きして、ご自身の演劇体験を語っていただきました。それから回を重ねて20回目となった今年の公演は、5期の参加者であった田辺さんの演出で無事終わることができました。1期から20期までの参加者総数は380人、公演入場者数は5,464名となりました。そこで、今年20周年を迎えたビギナーズを記念して実施した事業をまとめました。
(京都市東山青少年活動センター所長 西田尚浩)

参加体験談の募集

メインプログラムである7月のシンポジウムを盛り上げようと、ブログの記事にコメントを送信してもらうという形で、140字くらいの短い参加体験談をネット上で募りました。呼びかけは、「ビギナーズの体験談を中心に募集しますが、近況報告でも結構ですし、暑い夏をともした仲間へのメッセージでもかまいません。体験談のいくつかは、記念誌に収録させていただきます」というものです。現在、過去の参加者やスタッフの方々のメッセージが73通寄せられています。それらには様々な思いが綴られています。公演終了後はやり取りが途絶えた1期の参加者から、19年ぶりのうれしい便りも届きました。



シンポジウムと ワークショップの実施

(7月6日・7日)

ビギナーズは初心者のための演劇ワークショップという形を取りながら、社会人としてのコミュニケーションスキルや自己表現、自分づくりについて学ぶ機会を提供してきました。

シンポジウムは2部構成で、MONOの土田英生さんと演劇プロデューサーの杉山準さんを迎え、20年の歴史を振り返るとともに、ビギナーズが長く続いてきた理由や青少年育成の視点から見て、演劇創作の過程に何が隠されているのかなどを語り合いました。会場には、懐かしい顔との再会や新たな出会い、感動あり、涙あり、新しい発見あり、そして、今

ラストシーン集の上映

(7月6日・7日と8月31日・9月1日)

シンポジウムの計画中に、「今までの修了公演のラストシーンを続けて上映してみたらどう」という意見が出ました。「それ、えんちやう」と始めてはみたものの、初期の頃のVHSテープをDVDに落とす作業に時間を取られたり、8ミリビデオが再生できる機器がないと見られないテープがいくつかあり、過去の参加者に「VHSで渡した公演テープを持っていれば貸してほしい」とお願いしたりで、素材が全部揃うまでに相当時間がかかりました。編集作業では、公演時のパンフレットに書いてもらった参加者コメントを各期3つずつテロップに入れて完成。シンポジウム終了後の会場でも、また20期ビギナーズの修了公演前後の時間のロビーで、それぞれ上映会を行いました。ロビーに映し出される知り合いの姿を見つけた観客からは歓声が上がります。シンポジウム会場では、スクリーンに映った17年前の自分の舞台を見て涙する姿も見られました。



パネル展示

(8月1日から9月5日まで)

1期から20期までのパネルを展示したのは創造活動室の外壁面。各期のパネルは、ユニットネーの由来を含む公演データや練習風景、本番前の緊張感などぎる瞬間をとらえた写真、公演後の記念写真などを中心に、新聞記事も加えて構成されたもの。修了公演を親に來ていただいたお客様をはじめ、普段、センターで活動されているみなさんも足を止め、二十期二十色のビギナーズの歴史に想いを馳せていました。また、ビギナーズのことをご存じない方々には、この企画の一端を知っていただくきっかけとなったようです。



20周年記念活動報告冊子の作成

20周年記念のもう一つの目玉は記念誌の発行です。冊子の内容は20期分の公演記録や寄稿文、参加者・スタッフの体験談ほか、公演チラシギャラリーなどに加え、事業評価・事業の効果測定も盛り込みたいと、シンポジウムの報告、参加者や関わりの方々のアンケート調査の統計的な分析結果から見えてくるもの3つを入れて構成しています。編集作業は12月の発行を目指しています。



■シンポジウムデータ

第1部「演劇創作コミュニケーション力」

パネリスト

田辺剛
(劇作家、演出家/下鴨車窓)
(ビギナーズ1999受講生,2013演出担当)
西田尚浩
(京都市東山青少年活動センター所長)
(ビギナーズ1994~1997,2001,2011~担当)
前畑佳史
(島津エス・ディー株式会社)
村上直之
(神戸ビエンナーレ2013ディレクター)

モデレーター

岡野真大(私立光華小学校教諭)
(ビギナーズ2008~2013講師)

第2部「演劇ビギナーズユニットの20年を語る」

パネリスト

大熊ねこ(俳優/遊劇体)
(ビギナーズ2007~2009演出補)
杉山準
(NPO劇研事務局長/演劇プロデューサー)
(ビギナーズ初代(1994~1999)プロデューサー)
土田英生
(劇作家・演出家・役者/MONO主宰)
(ビギナーズ初代(1994・1995)演出担当)
山崎彬(劇作家・演出家・役者/悪い芝居)
(ビギナーズ2010~2012演出担当)

モデレーター

丸井重樹(演劇制作者, KYOTO EXPERIMENT 事務局)
(ビギナーズ2000~2005, 2008~2013プロデューサー)

青少年活動センターのページ

動きだした『ひきこもり地域支援センター』

「子ども・若者総合支援」の3年間と「ひきこもり地域支援センター」の位置付け

京都市が、京都市ユースサービス協会運営の中京青少年活動センター（中京）と教育相談総合センター（こどもパトナ）に「京都市子ども・若者総合相談窓口」を設け3年がたちました。窓口寄せられた相談は計1,154件（中京912件、こどもパトナ242件）。「家を出ること」「人とかかわること」「働くこと」「学校に行くこと」など、さまざまな相談の中身を詳しく聞いたうえで、適切な支援機関の紹介や助言を行ってきました。

相談内容は開設当初より「ひきこもり」が最も多く、3年間で313件、全体の相談の27.1%でした（中京は30.2%）。さらに、支援コーディネーターが継続的、総合的な支援に携わったケースは117件あり、そのうち52.1%がひきこもり状態の子ども・若者の支援でした。

この現状を受け、2013年10月1日より、子ども・若者支援室と中京青少年活動センター内の子ども・若者総合相談窓口は、こころの健康増進センターとともに厚生労働省が推進する「ひきこもり地域支援センター」として新たに位置づけられました。専用の相談電話を設置し、従来通り30代までの方を対象に、適切な支援機関の紹介や助言、継続的な支援を行うとともに、関係機関との連携を強化し、さらなる支援に取り組んでいます。

ひきこもり支援に向けて～ピアサポーター養成・派遣事業への取り組み～

子ども・若者支援室では、支援を必要とする本人や家族にとって、よりよいサポート体制をつくるため、多様な支援機関と連携を取り、適切な資源と繋がることのできるよう支援のコーディネートを行っています。そして、ひきこもり支援では、若者の心情理解に努めながら、時間をかけて本人や家族との信頼関係を築くことから始めています。

その中で「ピアサポーター養成・派遣事業」の新たな支援に向けた動きも始めています。養成プログラムとは、ひきこもり状態の本人を“当事者の立場で理解できる”若者＝仲間（ピアサポーター）を養成しようとしてNPO法人京都オレンジの会、NPO法人恒河沙母親の会の協力を得て実施しました。プログラム参加者は2団体に所属し、ひきこもり経験のある20代から40代の16人です。9月～11月のプログラムに参加し、「ピアサポートとは」「お互いを尊重し、支え合うこと」「しんどくならないために」などのテーマで講師を迎え、講義やグループワークなどの研修を受けました。修了証を受けた参加者は京都市の“ピアサポーター”として登録され、本格的な活動に向けて動き出します。



相談窓口	対象年齢	受付時間	休 日
子ども・若者総合相談窓口 (中京青少年活動センター内)	30歳以下	9時～18時	日 休 月 休 祝 休
こころの健康増進センター (中京青少年活動センター内)	40歳以上	9時～12時、13時～16時	日 休 月 休 祝 休

子ども・若者支援室の新たな取り組み

ひきこもり支援の展開



ひきこもり相談のなかには「外出したいができない」方や、「外出はできるが、人との接触を避けている」方もいます。

ひきこもり支援の開始時に本人と出会うことが困難な場合も多く、家族等の相談から開始し、手紙やメールも利用しながら、本人と出会う関わりを探ります。本人の同意があれば、支援コーディネーターが訪問することもあります。訪問時には、本人や家族との面接だけでなく、一緒にゲームをしたり、DVDを見たりといった時間を共有することを大切にしています。本人の希望を丁寧に聴き取り、人との関わりの経験を増やしたい方には居場所活動等の紹介を行います。就労に向けた段階では、就労準備につながるプログラムや機関を紹介します。心身の不調や自身の特性をはっきりさせたい方には、医療や保健福祉に関する機関を紹介する等、本人に寄り添いながら支援を展開しています。

ひきこもり相談の事例

30歳のAさんは、高校卒業後に就職し、半年で辞めてから10年近く自宅でひきこもり。母親が困り果て、相談窓口で電話をされました。相談窓口では継続的な支援が必要と判断し、支援室のコーディネーターに引き継ぎました。母親の説得で来館したAさん。徐々に慣れてきて「仕事できたらいいけど、人間関係が苦手やし、やれる自信はない」といった発言があり、課題もはつき

りしてきます。人との関わりに慣れていきたいAさんは、グループの活動に参加したり、就労体験のプログラムを利用し、最後までやりきりました。そして、就労支援機関と連携しながら就労に向けて動いていたAさんは、ハローワークでの紹介を経て、清掃の仕事に見事合格し、しんどい思いを経験しながらも、前向きにしっかりと働くようになりました。

講演会と交流会

「ひきこもり・不登校 ～家族や周りの人たちができること～」

講演会とNPO等民間団体との交流会を中京青少年活動センター大会議室で開催します。講師には、立命館大学大学院教授の高垣忠一郎氏をお招きし、ひきこもりや不登校の若者に対する理解や望ましい接し方などについてお話をさせていただきます。

交流会では、若者の社会参加を支援している団体による活動紹介を通じ、参加者と参加団体が繋がりを持つ機会になることを願っています。ひきこもり・不登校に悩むご本人やご家族、支援者や関心をお持ちの方、若者の社会参加について何ができるのか一緒に考えてみましょう。

12月7日(土) 14:00～17:00

■ 申込・問合せ：京都市ユースサービス協会 子ども・若者支援室
■ 075-708-5430 (参加無料)

ユースから版

若者側に立つ英国のワーカー 中京青少年活動センター ユースワーカー 國府宙世

2013年9月3日から10日間、「若者援助・政策と Social Pedagogy 研究会」の海外研修のうち、イギリス・フィンランド両国の研修に参加しました。イギリスの9月は肌寒く、秋まっさかり。リーズ・マンチェスターのユースセンターを訪れました。イギリスの青少年施策が、雇用就労支援の色合いが強く、就労に繋がる成果にばかり補助金がおりにくさに、現地のワーカーはやりにくさを抱えていました。個人の価値を認め、自分の立場になって話を聞いてくれるユースワーカーにあこがれる若者もいました。ユースサービスの意義を大切に、アイデンティティを持つことの重要性をひしひしと感じた研修でした。



事業案内

「サンタ大行列★」

山科青少年活動センターの事業で、今年も山科の街にサンタの大行列が出現！クリスマス直前（12月23日）に、サンタやトナカイに変身した青少年が、地域住民や大学生と協力してセンター周辺の清掃を行います！また、街を歩くなかで、出会う子どもや住民に小さなプレゼントを手渡します。

「新年もちつき」

平成26年1月11日（土）に南青少年活動センターで「新年もちつき」を開催します。つきたてのおもちは、きなこやぜんざいなどで提供します♪また、書き初めや正月遊びも行います。どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。

「Higashiyama ロビーギャラリー」

東山青少年活動センターのロビーでは、青少年個人・グループの表現・発表の場として、無料で展示をしていただけるスペースを作っています。創造工作室を利用されている方の陶芸作品や、ワークショップの製作物など、ジャンルは問いません。このセンターで、作品展を企画してみませんか？（随時募集中）

「DOUBLE DUTCH LESSON (ダブルダッチ教室)」をしています！

青少年の自主企画を支援する下京青少年活動センターの事業「プラン・ドゥ」のひとつで、2本のロープを使って行うなわとびです。講師は、ギネス世界記録を2つ保持するプロパフォーマンスチーム「alttype (オルトタイプ)」のメンバー。初心者も大歓迎！！リズム感やチームワークに必要なコミュニケーション能力が身につきます。現在開催中で3月28日までの毎週金曜日17時30分～19時です。参加費は月額6,000円です。特に中高生の参加を待っています。体験・見学もできるので、ぜひ、しもせいまでお問い合わせください。

第3回「北こみフェスタ ～つながる ひろがる 交流の輪～」

毎年、北区身体障害者団体連合会と合同で、「障がい」に対する理解を深める取組みとして行っています。今回は、3月8日（土）11:00～16:30に北青少年活動センターにて開催します！現在、ボランティアや青少年グループなどが参加する催しも実行委員会が企画しています。みなさん！ぜひご来場ください♪

事業レポート

実践講座「高校生社長 小幡和輝の人生論」

8月22日（木）、中京青少年活動センターが今年度1回目の「あたりまえじゃない生き方実践講座」を開催。和歌山から、合同会社「和～なごみ」社長、小幡和輝さんをゲストとして呼び出し、参加者がそれぞれの視点で小幡さんの生き方に触れ、語り合う場となりました。小・中学校の時に不登校を経験した小幡さんの話に、参加者も刺激を受けました。企画運営協力をしている高校生グループ「Rabbits Program」が、なかせいブログに報告を掲載していますので、ぜひご覧ください。http://goo.gl/18LfZx



「伝記作成プロジェクト」贈呈式を9月16日（月・敬老の日）に行いました！

北青少年活動センターでは、6月から青少年ボランティアが地域のお宅や高齢者福祉施設にお伺いして高齢の方々の人生について聞き書きを行い、1冊の冊子にしました。手づくりの和綴製本作業にも取り組み、贈呈式では感謝の気持ちとともに伝記を贈りました。伝記の一部を北図書館や「きたせい」に設置しています。ぜひ、手にとっていろいろな「人生」を感じてみてください。



共催「みかんマルシェ」

1日限りの手作り市「みかんマルシェ」を8月3日（土）に開催（主催：カフェ蜜柑）。南青少年活動センターや地域の店舗を会場に大賑わい。センター会場ではSF茶室やミニライブなどが大変盛況でした。センターのロビー喫茶コーナーを使ってイベントを行ってみたい方・団体を募集しています。詳しくはセンターまで！



「サマーカフェ」in ふしみん

8月1日（木）～8月5日（月）にかけて、中学生・高校生に企画から調理、接客までのすべてを担当してもらった「サマーカフェ」を実施し、焼きそばやホットケーキ、フロートなど伏見青少年活動センターで提供しました。スタッフの団結力は日ごとに増し、料理の腕も上達して、お客さんからもおいしいといってもらったなど、良い評価をいただきました。



「夏休みの宿題大作戦！」8/16～8/20

夏休みの終わりを迎える頃、山科青少年活動センターでは「宿題がおわらな～い！」と焦る中学生を救う企画「夏休み宿題大作戦！」を実施し、ロビーズボランティアと一緒に宿題と向きあいました。いつもは自習室を利用している高校生が勉強の合間に進路の話をする様子や宿題を後回しにしていた中学生も頑張る姿がみられました。



「しもせいフェスタ」を開催しました！

10月5日（土）「しもせいフェスタ」を下京青少年活動センターで開催しました。地元商店街で謎解きをする「しもせいちゃん's smile!!」企画やパワーあふれるステージパフォーマンス、青少年向けの啓発コーナーのブースなどで賑わいました。七条中央サービス会の「梅小路いきいきフェスタ」と同時開催ということもあり、1,265人にお越しいただき、地域の方々にセンターを知ってもらえるよい機会となりました。



公益財団法人京都市ユースサービス協会が寄付金募集

さる9月29日に中京青少年活動センターで開催した「ユースシンポジウム2013～若者が今、未来を語る～」会場で、京都市ユースサービス協会への寄付を呼びかけたところ、募金箱に6,053円が集まりました。ご協力ありがとうございました。

公益財団法人京都市ユースサービス協会への寄付は、税制の優遇措置が受けられます。所得控除や府民税控除制度を利用し、次世代を担う青少年の自立支援へ、皆様方の心あたたい寄付金をお願いします。寄付金のお申し込み、お問い合わせは京都市ユースサービス協会事務局（電話075-213-3681）までご連絡ください。

本誌『ユースサービス』の掲載広告を募集します！

公益財団法人京都市ユースサービス協会が編集制作刊行の情報誌『ユースサービス』は、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。発行部数…3,000部（年間3回 4月、8月、12月号発行）配布先…京都市の公共施設や中・高・大学など

〈広告掲載料金 オールカラー掲載〉

全1ページ（縦25.6センチ×横20.9センチ）	5万円
横1/2ページ（縦12.8センチ×横20.9センチ）	3万円
記事下1/4ページ（縦6.4センチ×横20.9センチ）	2万円

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、**京都市ユースサービス協会事務局**

（電話075-213-3681、Fax075-231-1231）まで。

次回、4月1日発行の18号への広告掲載申込は**1月末日**までお願いいたします。

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

7つの青少年活動センター

北青少年活動センター

住 所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

中京青少年活動センター

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

東山青少年活動センター

住 所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

山科青少年活動センター

住 所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

下京青少年活動センター

住 所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町90
TEL：075-314-5636
FAX：075-314-5640
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

南青少年活動センター

住 所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL & FAX：075-671-0356
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

伏見青少年活動センター

住 所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

子ども・若者支援室（子ども・若者総合相談窓口）

住 所：〒604-8147
中京区東洞院通六角下御射山町262 中京青少年活動センター3階
TEL：075-708-5440 FAX：075-231-1231
開所時間：月～土曜日 10:00～20:00（水曜休み）、日祝 10:00～17:00
URL：http://ys-kyoto.org/sodan/

京都若者サポートステーション

住 所：〒604-8147
中京区東洞院通六角下御射山町262 中京青少年活動センター2階
TEL：075-213-0116 FAX：075-231-1231
開所時間：平日 12:00～20:00（水曜休み）、日祝 10:00～18:00
URL：http://ys-kyoto.org/support/

発行

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下御射山町262

京都市中京青少年活動センター内

tel：075-213-3681 fax：075-231-1231

E-mail：office@ys-kyoto.org

HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所

デザイン：自然堂株式会社

